

# 新藤信夫市政ニュース

平成30年11月

Vol.27

発行:自民党真政さいたま市議団大宮区西支部  
TEL 647-7713  
FAX 647-7726



## へご挨拶

### 新藤信夫

秋の色が日毎に深まり爽やかな季節となつて参りました。市民の皆様には、日頃からさいたま市政に対しご協力を頂くとともに、ご意見・ご要望を頂き、それを糧とし議員活動をさせていただいております。

私、新藤信夫は、さいたま市議会議員として16年目を迎え、平成29年6月議会において第十五代さいたま市議会議長に就任し1年半がたとうとしております。これもひとえに皆様方のご支援があればこそであり、深く感謝を申し上げます。

9月議会においては市民の皆様にご心配をおかけする事態が発生してしまいました。それは吉田一郎議員(無所属)から障害者への医療費支給に所得制限を設ける条例改正案の賛成討論の中で、障害を持つ特定の議員を指して「ブルジョア障害者」という不穏当な発言で審議が一時紛糾しました。議長としても看過できない発言であり厳重に注意しました。

この発言はテレビ、新聞、ネットニュース等でも大きく取り上げられ、議会にも100通を超える苦情の電話が殺到し、吉田議員に対する脅迫状まで届く事態となりました。吉田議員は2月議会の文教委員会でも私立図書館長に対して「首をつって死ね。」などと発言をし、マスコミでも大きく取り上げられ批判を受けており、議会でも辞職勧告決議を受けています。さいたま市議会の不名誉な事件として市民の皆様にご迷惑おかけしましたこととお詫び申し上げます。このように議会の信頼を傷つける発言は許しがたいものであり、これからは厳正に対処しなければならぬものと考えています。

さて、さいたま市は東京以北の東日本で、今、最も注目される都市となりつつあります。「住みたい街」でも大宮・浦和が十位内にランクされ、人口も今年9月に130万人を超えました。さいたま市の中でも大宮は北海道・東北、上越、北陸新幹線の結接する広域的な

交通の要衝であり、東日本を連結する対流拠点として、また、首都直下地震発災時のバックアップ拠点として期待されています。さいたま市では平成30年7月に大宮駅周辺街区のまちづくり、交通基盤整備、駅機能の高度化を三位一体で取り組み、本市が求められる役割を着実に実施して、首都圏から東日本に展開・寄与してゆくために「大宮グランドセントラルステーション構想(GCS構想)」を策定しました。大宮駅は1日69万人の乗降客が利用し、「鉄道のまち」としての地位を確立してきました。大宮はすでに指定を受けている「都市再生緊急整備地域」の制度を存分に活用してさらなる発展に向けてGCS構想を着実に実施していく必要があります。自由民主党真政さいたま市議団ではこの実現に向けた協力を依頼するため、国には「財源の支援」、「国からJR東日本(株)への事業協力依頼」を求めて菅義偉内閣官房長官に要望書をお届けしました。さらに、「大宮駅のリニューアル」、「東口駅前広場の整備」、「東武大宮駅の移設改善」等を求める要望書をJR東日本(株)の深澤社長に届けました。

さいたま市の人口が減少に転ずるであろう、これからの10年を「運命の10年」と位置づけ、大宮駅を中心とした大宮区が利便性の高い住みよいまちとして変化し、さいたま市が東日本の要衝としてさらに発展することができるのか、市議会議員として責任の重さを実感させられる時期にきています。これから市民の皆様への要望にできる限り応えらるる努力を重ねて参りますので、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



菅義偉内閣官房長官に要望書を手渡す

## さいたま市の人口130万人を突破

さいたま市の発表では9月18日現在130万40人で全国9位の人口となっています。平成13年に旧大宮市、浦和市、与野市が合併してさいたま市が誕生したときの人口は約103万5千人、その後平成17年に旧岩槻市が編入して約118万人となった政令指定都市さいたま市は毎年1万人ずつ人口が増加(増加率0.83%)し続けています。1年間の増加率は川崎市、福岡市に次いで3番目に高い。男女別では、男性が64万7,478人、女性が65万2,562人で女性が約5千人多く、区別の人口増加率では緑区が14.7%と最も高く、大規模開発が進む浦和美園地区の増加が要因となっています。また、直近5年間の転入者のうち約6割が20~30歳代と若い世代が多く、その背景には保育所を積極的に整備して昨年度には待機児童0を達成したり、浦和、大宮の2都心が住宅情報サイトで実施した「住みたい街ランキング」で上位に入るなど都市イメージが向上したことも寄与しています。こうした人口増加も全国的な人口減少が大都市にもじわじわと押し寄せ10年後には減少に転じていくと予想されています。

### 区別の人口の推移

	2003年4月1日	2018年9月18日
西区	81,748	89,471
北区	129,128	147,200
大宮区	105,219	117,318
見沼区	150,085	162,583
中央区	87,921	100,887
桜区	91,587	95,939
浦和区	137,595	161,582
南区	164,664	188,397
緑区	103,048	124,534
岩槻区	111,494*	112,129
計	1,162,489	1,300,040

\*2003年の岩槻区は合併前の旧岩槻市の人口

## ピンクリボンライトアップ点灯式

乳がんの早期発見・治療を啓発する「ピンクリボン運動」の一環として「第6回ピンクリボンライトアップ点灯式」が10月27日に大宮ソニックシティ鐘塚公園で開催されました。

当日は午前10時から開催された大宮区民ふれあいフェアにもピンクリボン運動のブースが設けられ触診体験や看護師による相談コーナーなどを展開し279名の方が来場されました。

点灯式は10月の乳がん月間に合わせて、埼玉県、さいたま市、県立がんセンター、大宮西ロータリークラブ、戸田中央医科グループが組織する「ピンクリボン運動推進委員会」が実施したもので、夕方から行われた式には奥野副知事や清水市長をはじめ看護学生ら約400名とともに、私も参加しました。

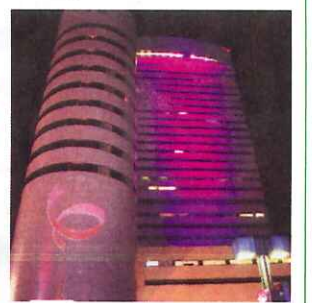
副知事や市長の挨拶に続きソニックシティビルにはピンクのライトが、パレスホテル大宮の壁面にはピンクリボンがライトアップされ、大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

点灯に先駆けて行われたトークショーでは乳がんを経験した女優の生稲晃子さんが講演し「1、2年に1回はいつも頑張っている自分へのご褒美と思って検診を受けてください。早期に発見すれば治る病だし、元気に生きることは家族や大切な人の喜びや幸せにもつながる。」と呼びかけました。

平成28年の検診率は全国で44.9%とまだまだ低い状況で、講演をした生稲さんも「今日参加された方々がさらに多くの方に検診を呼びかけてほしい。」と締めくくりました。



ピンクリボンライトアップ点灯式



パレスホテル大宮とソニックシティビルにピンクリボン投映

## 平成31年度 予算編成方針

さいたま市の財政課が今年度の当初予算をベースに来年度(平成31年度)の予算について庁内調査をまとめたところによると、平成31年度は、歳入が5,307億円、歳出は5,671億円で、364億円の歳出超過(財源不足)となりました。歳入は市税に地方交付税等を加えた一般財源がほぼ横ばいとなる見通しなのに対して、歳出は扶助費(児童、高齢者、障害者、生活困窮者等を支援する経費)を中心とした義務的経費が増え続けることや、公共施設の老朽化対策等の財政需要が大幅に増大することが大きな要因となっています。

今後平成31年度予算案の決定に向けて、事業の緊急度、優先順位、費用対効果、改善や見直し等を軸に各部署からの予算要求を削り込み、2月議会で審議されます。

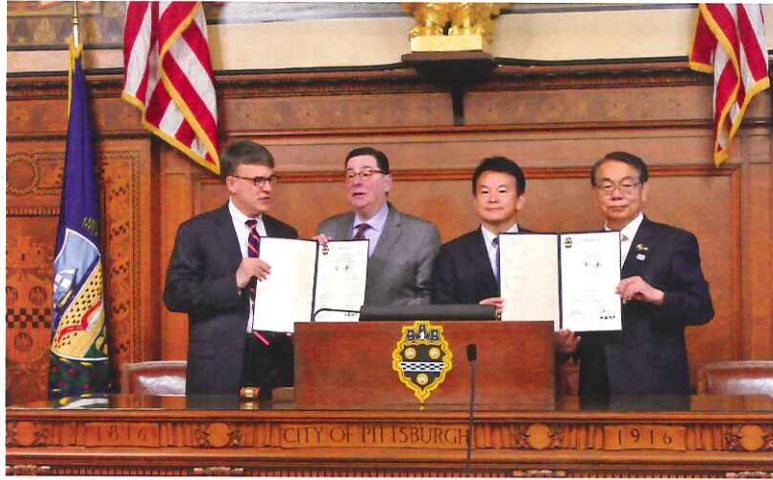


## ピッツバーグ市(米)と姉妹都市協定書を更新

7月23日から6日間、清水市長並びに5人の市議会議員とともにさいたま市の姉妹都市であるアメリカ合衆国東部のピッツバーグ市を表敬訪問し、姉妹都市提携20周年記念事業などに参加して参りました。ピッツバーグ市議会で行われた姉妹都市更新同意書の調印式出席をはじめとして、ピッツバーグ地域連合等への訪問や各種公式行事に参加をして参りました。

さいたま市が来年度開校を目指している大宮国際中等教育学校との留学生の交換や国際バカロレア資格者の現地大学や教育機関への入学実績等について積極的な意見交換を行いました。

米国を代表するピッツバーグ大学やカーネギーメロン大学も訪問し教育システムや学生の生活環境などについて有意義な意見交換を行いました。



姉妹都市更新同意書調印式と更新同意書



## 進む、食肉中央卸売市場・と畜場の移転構想

県道南大通東線の吉敷町ガードの南西側で新幹線・埼京線の高架橋のすぐ下に「さいたま市食肉中央市場・と畜場」があるのをご存じ方は多いでしょう。この施設は旧大宮市が昭和36年に農林水産大臣の認可を受けて開設し、食肉の公正かつ安定的な取引の確保と流通過程の合理化をはかることを目的として設置されたものです。併設していると畜場も県知事認可を受けて同年に設置された施設で食肉となる牛、馬、羊、山羊が衛生的にとさつ解体されています。ここでとさつ解体された枝肉は中央卸売市場でセリにかけられ卸売業者に販売されて小売業者を通じて消費者の手に渡ります。さいたま市をはじめ都内近県の肉屋さんやマーケットで販売されている食肉の多くがこの市場で販売されたものです。

この食肉市場・と畜場も開設から57年目を迎え、老朽化が進み耐震性も不足しており狭いいため卸売市場としての使命を果たせなくなっていることから廃止を含めた検討が昨年からはじまりました。市場関係者のアンケートによれば存続を希望する声も高く、消費者からも安心・安全な食肉供給や、地産地消の推進を求める要望も強く出されていましたが、現在地での再整備は敷地が狭いことから難しく、現在、地域防災拠点、情報発信、地域経済活性化拠点等(道の駅等)の機能を付加した施設として移転再整備することで検討が進んでいます。

移転先についてはまだ明らかではありませんが、来年度(平成31年度)から基本計画の策定を行い翌年、都市計画決定、開発許可を受けて平成35年頃の開設を目標として準備を進めています。



さいたま市食肉中央市場・と畜場  
向こうは新幹線、埼京線の高架橋と新都心

## 免震ダンパー改ざん

免震・制震オイルダンパーのデータ改ざん問題を起こした油圧機器メーカーのKYB(株)と建材メーカーの川金ホールディングスは10月26日改ざんした油圧ダンパーを使用している建物等の一部を公表しました。さいたま市では複合公益施設サウスピア、大宮区役所新庁舎(工事中)、さいたま市役所庁舎(耐震工事中)で使われているダンパーの一部に検査データの改ざんされた製品が使用されていたことがわかりました。

免震装置は平成7年に起きた阪神淡路大震災時、ダンパー等の免震装置を取り付けていた建物の被害が少なかったことから注目されるようになり、平成6年に84棟(戸建てを除く)だった免震建物が平成28年には4,345棟にまで増えました。南海トラフ巨大地震や首都直下型地震への備えもあり免震制震装置の発注は増え続けましたが、両社とも検査態勢は当時のままであったため、出荷数に検査が追いつかず、改ざんに及んだものと考えられ、両メーカーともほぼこれを認めています。今後この改ざんダンパーはメーカーの手で交換されることとなりますが、全国的に広がっていて数も多いことから時期は明らかにされていません。

なお、国土交通省の発表ではこれらの改ざんダンパーでも地震への対応性が全くないというものではなく、震度6程度の地震にも耐えうるものだとしています。



建設中の大宮区役所新庁舎に  
取付られた改ざんダンパー

## トピックス 氷川神社神池「かい掘り」

武蔵野国一の宮は、さいたま市最大の観光地であり、初詣で客は200万人を超え、12月の酉の市である「十日市」にも100万人を超える観光客が訪れます。神社の社殿に入る手前には神橋がかかる神池があり、今回はこの神池の「かい掘り」が50年ぶりに本格的に行われました。神池は見沼の源流の一つで、見沼田んぼ一帯では昭和30年頃まで蛸が生息し、神池は蛸の名所ともなっていて、戦前にはここで捕まえた蛸を皇室に献上していた記録も残っています。

今回のかい掘りは、氷川神社で蛸の復活に取り組んでいる「氷川ほたるの会」のメンバーを中心に地元ボランティアら約150人が参加して9月13日に行われました。当日の様子はテレビ東京の人気番組「池の水ぜんぶ抜く大作戦」にも収録され、多くの観光客も珍しそうに見守ってくれました。作業の2日前から水抜きが始まり、当日は池の中心部だけに水が残り、そこに集まった魚や亀などを胴長をはいて手網を持ったボランティアが次々に捕獲、たらいや水槽に種類毎

に分類し保護していきました。池に住んでいたのはコイ、フナ、モツゴ、エビ、カメなどで期待していた珍しい種類の生物は見られませんでした。池の中は1mほどの厚さに堆積した泥土に覆われ、泥に足を取られて身動きできなくなる人も続出、この泥土が蛸の発生を妨げる一因でもあることから、1、2ヶ月池を干した後に撤去することにしています。

さいたま市としても水環境の改善を目的とする事業や団体を応援しており、「氷川ほたるの会」も市の協力をを受けて水環境に関わる団体との交流を進めて行くことにしています。



権宮司と集まったかい掘りボランティア